

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業名	認知症高齢者家族介護支援事業			会計	款	項	目	大	小
政策	O4	4節	誰もが充実した生涯をおくることのできる流山（市民福祉の充実）	主管課	介護支援課				
施策	4-2	高齢者や障害者がいきいき暮らせる社会づくり		主管課長	豊田 武彦				

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	認知症高齢者を介護する家族	意図	認知症の当事者を介護する家族の精神的な負担の軽減。
事業内容	認知症の方を介護する家族の集い（コスモスの会）を開催して情報交換と交流の場を設ける。			
事業開始から現在までの状況変化	介護家族健康教育として健康増進課で行っていたが、平成18年度から地域支援事業として介護支援課で実施している。平成27年に国のオレンジプランが改定され、柱の一つとして若年性認知症施策の強化が位置づけられた。重点課題として、若年性認知症の人の居場所づくりや社会参加の支援が挙げられている。事業費は地域支援事業交付金として交付される。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
	①	コスモスの会参加者数	52	36	28	人	↑↑↑
②							
③							
④							
⑤							
⑥							

指標で表すことができない定性的な成果	目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）		
事務事業のコスト	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事務事業の総コスト(a=b+c)	776,257	750,001	732,306
事業費(b)(円)	89,757	78,801	73,106
職員給与費(c)(円)	686,500	671,200	659,200
人役・職員(人)	0.10	0.10	0.10
人役・再任用(人)			
人役・臨職(人)			
人役・嘱託(人)			
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）			
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）			

・年4回実施し、認知症の人と家族の会から助言者を招き、介護者の心身の負担の軽減を図った。若年性認知症の関する催しを2回実施した。
 ・若年性認知症に関する催しは、当事者、家族への周知が難しく、家族の参加は2回あわせて5名であった。
 ・地域包括支援センターにおいても、各担当地域の住民を対象に同様の目的で家族会を実施している。
 ・参加者の情報交換の場にとどめず、地域包括支援センター等の個別支援につながっている。
 ・土曜日開催も行い、年間新規参加者は8名であった。

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	B 市が担うとともに、市民協働を進めるべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	II 継続（事業を現状どおり継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

①H30当初の改善計画(Plan)	休日の開催や周知方法の検討を行い、新規参加者の増加を目指す。若年性認知症に関する勉強会や情報交換会を2回実施する。	③取組における課題(Check)	新規参加者数が減少傾向であり、周知方法を引き続き検討する必要がある。若年性認知症の勉強会の周知方法等について検討する必要がある。
②H30に実施した取組(Do)	土曜日に開催し、当日参加者は4名であった。認知症の人と家族の会千葉県支部世話人、認知症疾患医療センター職員に講師を依頼し、若年性認知症の勉強会を2回行った。	④課題に対する今後(H31~)の改善計画(Action)	新規参加者の増加を目指し、広報や窓口相談、認知症のイベント等で積極的に周知する。若年性認知症の勉強会については、認知症疾患医療センターの協力を得て周知する等検討する。